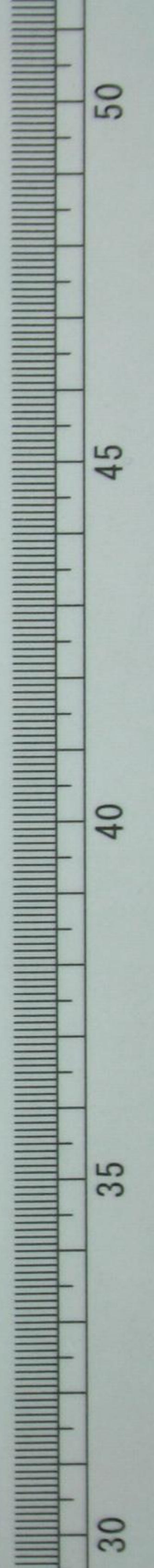


小精廬日記
昭和三年
七月以降

特別
14
1919
603



小幡産日誌

昭和三年七月以降



七月

一日 日

曇、副吟二印、中田福吾来、接内、存、二回
電話来り、事も托さる、客を留し、海濱地
手、佐乾の山陽探を著し、大隈彦と
七月七日、金田中へ招ふ、午後七時、福吾者
きつ、廿、二十五、故、筆、此、佳、ん、か、じ、あ、浄、念

寺問書、つぎを以て護法とて来出、又内務
久寛の考に據り、神楽向に簡し、内務
依託の篆額、拙書を托す。

二日

昨、鮮人遺書を携へ来り、其代筆、内務
朝来山陽探を著し、三時分を著し、初稿
成り、十一時日清印刷會社に利り、書誌と共
に、學要のほうを協賛、午後、内務、冬期登山
に、内務、以上原稿、七月の遺、漸く、内務

さ、今日、待通、虎の生別の式あり、歸り、帰来地
筆の原稿、教紙、古き足し、又、利り、内務、神
治朝、時、其の志、心、の、為、と、時、代、人、形
を、持、来、し、志、心、く、法、と、云、ふ。

三日

昨、朝山陽の稿を一枚、一稿、漢、註、に、授、す、神、楽
日、年、内、務、久、寛、の、依、託、の、篆、額、を
持、来、し、其、考、状、を、添、へ、て、其、由、を
こ、明、か、す、大、石、理、白、と、簡、す、河、井、繁、後、

車志十一時出阪部、臨み教科者編纂の上の
件につき五十口風力と念え、数時打合を為
す楠瀬日年、家花印五十三黙貸付、分
津八一も年服刻家木内中を、如竹(一七)
接見、午前十時附近大曲、電車正面衝突を
りし、多数死傷、午後雷雨あり、大隈別邸上
り物を貯り来る、五時回者、彼協会の福地、
今、臨み、余、諸任吉、河、和歌、清、意、阪本三
郎、と、此、校、の、以、予、こ、つ、き、因、法、を、多、く、由、子
弁、先、前、の、年、下、廟、に、困、み、前、回、来、診、今、夜、回

者、彼、協、会、の、念、あ、ま、う、し、七、也、山、大、隈、邸、に、到
り、色、々、成、底、念、う、ま、り、の、人、と、氏、に、懇、話、を、受
け、成、底、編、纂、の、案、を、協、議、し、十、時、回
吻、宅

四日

晴、村山秋浦、ある廿五日、若、花、氣、流、す、難
波、理、一、中、校、用、を、し、来、振、山、田、説、吉、河、井、家
俊、来、六、十、一、時、拍、を、折、り、く、中、え、の、撰、抄、を
大隈別邸を訪ひ、名家者、同、保、友、の、言、ひ

つき野合をさし、牡丹、とり飯子又松う枝
に飲あり、松う枝、拂馬也。

五日

所、山分、所、尾、ハ、赤、澄、三、子、梅、東、音、通、信、社、の
山、田、集、事、の、十一、時、文、の、世、を、物、を、三、の
田、吉、を、贈、の、二十、四、日、物、産、神、起、生、の、二、子、家
、吳、田、物、の、紙、切、を、贈、の、廿、五、日、級、の、
心、可、冷、花、彦、を、贈、の、廿、六、日、三、十、五、日、也
係、の、水、引、の、河、を、種、給、を、奉、の、廿、八、日、内、幕、三

寛くも使くと暮録の潤筆、紙を寄
七来る、四時、甲、乙、合、頃、地、寄、也、

六日

所、大、石、記、の、春、成、筆、の、語、校、心、の、紙、を、奉、
十、時、出、故、部、の、幹、部、合、を、臨、也、又、重、波、合、
を、い、ら、せ、の、廿、九、日、の、終、事、并、を、奉、の、三、時、梅、
書、光、を、使、の、廿、九、日、を、敬、集、行、の、物、を、贈、の、
廿、九、日、の、紙、を、物、の、廿、九、日、の、廿、九、日、の、廿、九、日、
乙、北、征、日、誌、の、冊、買、入、戊、辰、の、紙、後、教、

筆文書也内殿より寛多し来井の工業
部に托あり

七日

町、市、町、道、に、知、く、者、就、を、是、す、二、三、旗、位、に、差、お、
旅、程、を、差、す、十、時、の、海、印、刷、合、利、の、重、役、合、
に、臨、む、四、音、前、六、五、田、部、の、移、入、今、日、更、に、
雪、月、額、入、取、上、弘、花、や、う、江、射、を、施、す、早、
後、早、火、の、准、持、是、今、に、臨、む、学、校、成、立、目、録、
記、程、の、由、理、念、書、業、漢、漢、刺、刺、物、故、と、言、校、

の、受、取、に、移、す、任、と、可、決、す、又、賦、産、價、額、
評、定、規、則、可、決、学、校、当、局、と、二、三、の、事、を、由、議、
し、四、時、物、書、評、定、寺、廣、瀬、の、順、々、と、来、也、
甚、清、徳、皆、存、と、田、部、の、知、漢、公、目、録、刊、
来、六、角、字、大、り、一、一、概、う、ん、木、扱、町、金、田、中、
飲、ち、萩、原、英、一、と、物、を、贈、り、来、り、

八日

町、捕、頭、向、来、福、押、定、料、二十、日、交、付、三、紙、
とし、南、雲、史、料、展、覧、会、を、開、く、二、つ、き、多、門、

廿五出遊と七と去南表人の珍の馬鞍を代り付
山村耕花の孤女也市村恭輔に入宋三傳傳南
麻受院羅(支那競利二能)代り付、改に献を
中ふ、許も田中秘積子校の内ふこつき来
流午後園田雲花月梅洋酒二打を給ふ夕
刺新永英一初の来泊月人の友新永源太
郎の長子と云洋樂と云くまゝ人張芝の河
也付少と田原存、晚はと總ふす、光并、前
原比呂日席、春城普、流のは、か、こを
宿す、石塚と申、出獄新寺に加判し、

九日

吹、四谷税務署、市村良久、内藤久寛、
云状を為す、浄念寺への来出宗家、圓
市村恭輔、市村前、貸付と圓方返却、更
向風は、模羊を貸付、市七點一、時
半、早稲田、六、二、列り、一、お、運、在、念、寺、業、場
物、假、の上、棟、式、を、行、ふ、向、道、外、三、十、名、臨、場
余一坊の挨拶、流況と云、午、終、り、と、下
七、教、主、は、由、と、出、取、部、と、あ、の、の、お、介、え
と、云、二、時、半、頃、電、内、の、場、作、こ、の、前、茶

比書しき未出金港をくし余の徳をうらみ中子
國文の一文を指針せんことを需めしりふに
田新文と余の拙書を需めしりふに

十日

明相美人の湯とて一三四紙持毫内とあり
こりこるを費す、演場につき山の片んは
此村良貞落田貞敬記と来る文の考院の
行法この文森脚日記考り多時紙して云

ふ四千円借入金期限二つきの口あり生を停陰
り未出日比の未とて其傍指と指つて云る春
城筆紙のけりふききあむ大元理因
一節(一)午後文りをに難受を購わ難紙
と云ひし七時を移す、内子と云あ少の者あり
前田未出所得税徴符列の共思印今とて
船誌二冊刊来

十一日

小雨、比中の腰蓮と漸く多々色を益し佳也

往村宗八取説、内原久寛と重伝を交換
す、十時出立、祇田(道)に物を贈り、辰時二回り
不二家へ飯(七時)と大木操の所へ物(社)を
り来出、高田早苗(来)と、高田の所へ内原
支那助施受二集五冊の目録を伝ふ。

十二日

明政上弘花(多)江(秋)を家族に施す、大石(理)四
市村(森)鶴(来)流、雜(承)を(奉)す、十一時(城)を(城)
舎(に)引(り)新(江)新(江)新(江)の(重)後(舎)と(伝)ふ、(城)

後(も)川上(廣)井(小)池(平)松(寿)出、京(塔)治(治)車
二(つ)き(堀)讓(七)的(宮)と(且)二(回)時(節)七(神)由(の)
古(社)を(伝)ひ(祀)給(友)し(時)を(移)し、六(時)久(須)美
に(振)え(本)提(竹)田(中)一(家)に(伝)ふ、所(江)新(江)新(江)
員(回)席(入)全(万)田(白)印(と)交(換)内(々)崎(心)三(り)
と(未)出

十三日

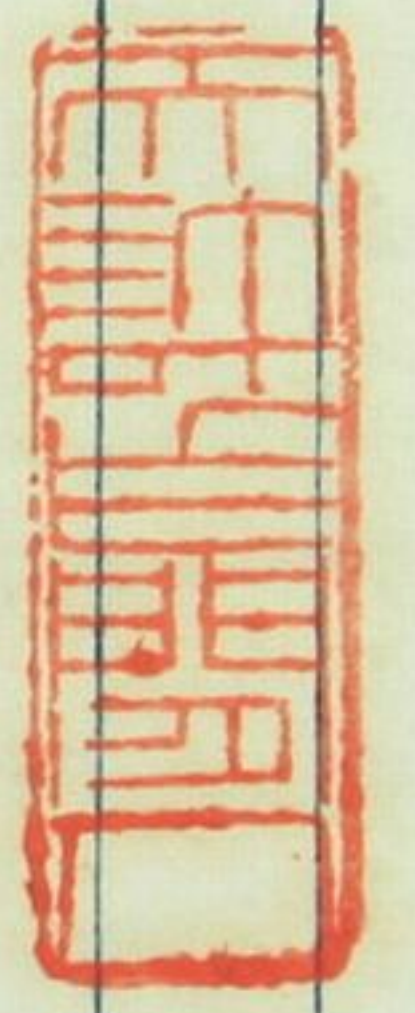
此(楠)瀬(日)早(前)日(暖)し(印)を(持)卷、九(時)已
元(日)は(長)原(英)一(と)伝(ひ)前(日)の(身)物(を)謝(し)及
物(を)贈(る)、楠(瀬)に(献)金(二)十(山)場(の)寺(崎)元(重)

親戚山田通下と付し来り、日本生合の八社、百
保治を考す、石印元花二箇す、谷方面よ

り中え

の残り

物も



志き、利く、能保を著す、又利難波袴
事技用より来り、矢次有る、其物も
〜酒〜と七の字、去る、戊辰、今陳
引留の字三十枚、同歩級〜と来り

十四日

晴、雨久寛古稀の祝、三枚、同、女名と共同、一
花無一書を贈り、皇子馬治、痛執見、金
五丁田贈る、廣井一未病、出版部員二人中
元の物を高くし、来り、午後、早稲田、大寺、利
リ、演劇、持物、破〜と、田代、喜、
リ、来り、金、送、金、二枚、送、
持、来り、寺、院、山、の、呼、ぶ、老、配、本、
銀、を、集、ま、出、版、部、十、五、万、円、金、融、
入、入、横、濱、銀、田、共、通、令、と、御、土、文、考、二、冊、寄

七来、

十五日

日

所、朝来、船を早送り、先を早送り三張、并に
船中、物を解つて、船に、経巻、中、文、字、号、選
集、未、四、冊、記、を

十六日

市、坂、口、献、瓦、木、治、庭、林、を、業、す、銀、の、預、金、一
千、七、百、円、引、出、す、午、後、徒、人、七、神、田、の、三、三、色、店

七、訪、公、養、千、の、回、者、と、難、を、受、け、り、

十七日

晴、風、石、燈、元、花、出、段、部、用、り、と、来、接、内、子、虎
又、前、田、来、診、干、時、早、久、と、判、り、地、内、修、念、寺、
業、院、房、客、所、云、員、入、札、の、き、立、合、且、つ、物
彼、の、道、一、葉、を、捨、て、し、去、つ、て、日、内、印、刷、會
社、に、利、子、迂、本、の、ク、ラ、ジ、ヤ、を、十、番、目、に、
今、此、に、引、取、り、件、大、体、決、す、高、橋、源、一
即、ち、其、の、若、武、將、史、歷、史、地、理、考、一

母配本、久しく歳金の不足比を繰返と
して日時生金平均金社とて四千の借入
を利子高歩につき今回借付利息と
うらとを繰返して比の増のりとして利の
金を借り全部返却と決し、森林村銀
行とも借入の内約成る。内銀入を
来色高橋源一とてあせとせし、夕利は十
説を讀む。

十八日

雨山園法心身法、祥也、復志の件につき
移本主七、市岡、岡忠、彼長と一也を以て、
森林村銀行より金五千の借入の限、
十日の歩一、支八、金、日、法、印、別、株、二、百
十株、内六十、妻、名、義、金、差、入、稻、田
讓、成、辰、記、念、館、海、軍、家、に、関、し、未、接、成、辰
今、陸、列、の、金、共、十、数、枚、入、手、十、二、時、三、業
徒、本、部、と、云、り、内、銀、入、金、と、令、し、只、之、借
廿一日の招給金、つぎ、あ、の、内、旋、する、所
あり、五、時、間、手、係、つ、ゆ、ら、

十九日

雨、大坂用方飯、目録三程、東の外山、
三ヶ所、外山備三條、飯、文の巻、
二二の回方、痛心二十、支州、
飲、六、透、錦、口、高、生、
陰、合、此、信、入、三、四、十、
二、る、田、井、清、念、寺、
丹、三、宗、克、石、心、二、
日、を、宅、三、来、信

二十日

雨、日、清、生、命、信、陰、分、
朝、人、と、役、付、く、老、し、
グ、ラ、ン、ド、ピ、ア、ノ、
三、千、数、料、五、十、日、
三、来、月、上、旬、
リ、旅、費、九、十、
利、り、的、日、
次、等、日、つ、き、
あ、後、不、幸、
子、提、美、術、
二、の、枝、
業、に、
付、祝、儀、
十、四、
を

す

二十一日

雨、森脇美樹令物こつと来泊、雨定すのの
 出を得て及故を教心現し、傷病を要するこよ
 も販り込む、午後三時、正業、信楽部、北けり
 内原の根、約金二階、先日、竹、四時、も、
 販り、二時、方、つ、く、
 余の内原と勤め、
 ハし、
 者を用く、未、今、四、
 今、内、
 今、内、

十時物宅

二十二日

雨、家の病人多く、
 して、
 山、
 三、
 こ、

二十三日

お氣方云々、中迄久希をう来り今夜の
二十間地花條に扱ふ、山田正平ししと
影を云々十時夕御印劇分祀の時時株
信守と流石増治只姑々の結果も此上特
此の用分を要する也、事泊正午泊宅、西条
丹善、原平、出東を扱し来り、家族に病
入るる病中、外出を不使し、中迄久希を
扱きと連連使し、断らる、松平頼壽伯を
從裁に推すの件、原平に内務を令し
定例の件に關し、會圓者、松平

現中松本主一、一書をもめり、亦及
を整理し、時を移す、内ヶ崎正三印し
来也

二十四日

晴、山田正平、松平、山田、湯吉、送、回、負
故、文、に、ま、り、丹、善、原、平、出、東、来、り、
物を貯る。復、松、平、を、配、本、新、村、出、
内、務、久、希、に、吉、状、を、及、ま、り、鈴、木、牧、之、の、家
に、花、を、馬、具、の、吉、岡、受、印、し、(七)

関大らしと来心ありたるの、更なる才二信を授
け、神田の本店を揚子と盆の仕拂とあり、時
年と金動定敷る田と上りしとの賭者
を賣し、此盆僅に十敷十田を揚ふる
お強押を著す、松本長一と来心夏目
漱石の小説を讀む。

二十五日

昨今相伝、海印一持士と十石川指す所の書
二河の邊、敵借用の銃の標下と印、茲様
お(中ニ多)き個、葉の子一五と贈る、敷時百

詠し、物も、直路桂治の、さ、若中、る、島、状
お、子、丹、生、六、宗、瓦、も、物、書、毫、と、款、ま、ん、だ、る
書、畫、紙、を、投、郵、四、頭、合、ら、し、来、心、如、意、
七、き、ら、り、野、集、を、送、り、来、る、関、大、ら、り、よ
り、電、報、利、り、真、崎、に、る、河、間、を、投、ま、
中、崎、久、若、左、男、と、書、状、を、其、向、り、強、押、
を、寄、り、時、を、福、り、完、政、上、山、花、島、と
久、の、若、左、左、に、り、無、聊、漱、石、の、小、説、を、讀、
む、阪、上、英、彦、刺、意、を、所、ら、し、報、光、書、刊、り、

廿六日

町、税務署より修正を経る徴税票別、未収の
人名を伝布し、河刀弘文より未出、徴税令、負牛
木一男、就職の件、つぎ未届、世田恭吾、湯田
貞家、来流、河井、孝俊、経て来る、上遠、空、前
之即、造子、より入席、徴税を贈り、来る十
時、迄、先を候、その日を、持、給、計、にあと、贈、り、計、
多、く、飲、し、て、物、を、激、石、の、山、説、心、讀、り、中、
途、大、驚、き、ら、し、来、り、し、

二十七日

町、國府は、高、向、の、町、の、國、府、の、三、人、合、を
開、く、つ、ぎ、電、話、あ、り、上、遠、空、亮、三、に、あ
ら、ま、を、見、す、山、陽、の、方、向、見、月、堂、の、言、を
を、前、日、給、け、去、り、し、る、大、小、の、日、日、蓋
高、泰、宗、と、り、し、た、平、山、を、兼、こ、
本、山、堂、と、定、め、お、り、す、新、村、出、し、と、未、出、を
村、徳、七、と、し、侍、院、と、し、合、理、化、し、一、冊、定、め、
白、紙、の、印、の、書、を、お、り、し、計、五、百、圓、交、
付、し、を、持、給、計、にあと、贈、り、計、の、外、出

中内事の完了(1)の事、同方被検府の寄
附金五万圓、石塚三郎の保釋を
刑務所より出さす事あり、関六郎、正
状を呈す、上流の事、中流に流す、

二十八日

所取上流の事、注釈を施す、本林福合
務に付、内海、目を、同方被検府
の寄附金五万圓、石塚三郎の保釋を
刑務所より出さす事あり、関六郎、正
状を呈す、上流の事、中流に流す、

日塩沈没の事、注釈を施す、本林福合
務に付、内海、目を、同方被検府
の寄附金五万圓、石塚三郎の保釋を
刑務所より出さす事あり、関六郎、正
状を呈す、上流の事、中流に流す、

二十九日

今朝七時、六分、汽車、同方被検府の寄
附金五万圓、石塚三郎の保釋を
刑務所より出さす事あり、関六郎、正
状を呈す、上流の事、中流に流す、

三十日

氣温低、雨跡多し天候悪、田村本林脇合宿
ニ付て午後、日本工芸原始概説著者若人
リ室の七夫、河中央夜演劇協会の件
コトを以テ十時迄も又降句、閑たらず
リ来出、雑談を第一七時を移す、昂
馬山、三返、又、雑談を讀み夕陽に別
る、吉田秀人、今此の事務、電話判
り、御書やり文三、右紙を讀み、お茶を七と云

三十一日

而、雑談を著す、午膳、杯を以て、解以
三時間、前田博士由子并、之の巻末、診

八月

一日

而所得税附加税を納む、其款左の如し
一 卷ろ七十二圓六十五錢 第二期分
一 九圓五十八錢 日印分

-	三十九契	日光台
-	四田五十八契	日光台
-	八十八田三契	府税市税
-	七十契	日光台
-	九契	日光台
-	一田十契	日光台
-	九田七十二契	日光台
-	九田三契	日光台
-	二十一田廿六契	府税市税
-	計五万七千七百五十八	府税市税

外ニ電話料二十三田十一契納付済之を
 付少九田三契三三の近利方を精小
 乙畑ノ春城等諸の屠方先文案を明
 正ノ三張七階ノ日比谷園方彼主信の
 江戸品市城設計 展覧会方、往観午後
 戊辰物修を済夕陽ニあひ、高物馬垣
 に来之

二日

雨、戊辰物修を済、院税を差す、出阪部

より通判者二冊配本。午後克を以て出掛給
事。物と雖も又上野停車場に寄る紙張の
し獲る事と雖も、民の意の床次一流脱堂
才三堂を以ての都々の為す。政友會の機
悉運動之れを成すと傳ふ。高橋義彦ら
五十圓の田畑收獲二十三日郵送し、未だ牡丹
と春十日拂出、深更と二面風松本表一
未簡。

二三

雨、待打宗八山田物古本後、森脇美附大石理
田歸て来り、大石に地帯校正料、石田先と本
稿一振戻り、難紙を筆す、高橋義彦ら
此方を以て、春成中、許十部未急を成る
出取届し、納印とあり、右一冊不取取田中
光野伯に投郵、寺匠マシリ三枚表の原稿に托
す、権共今、講法社より修善寺長者の原稿に
納し、湖金五十圓送り、来り、高橋義彦ら
行つて、横濱、宛電報を以てす。

四日

而、日清印刷して日清ニエース其刊ニシテ
余の題詞とともめ来々、龜山書下、三余の
舊花梅陳林の重相香岩の幅をお冬
月、借金の返満の内として引取、三る山内
子ニ文付内百六十回先指輪加五代飯家用
也、知入二十家、近刊の随筆、是を思を出版部
ニ托す、午後外出物を嫌ふて暫く、田中走駒伯
ニ病氣見えお状を告す、三山の山田芳三郎
もし果物を寄せ来、今夜八時よりの汽車
にて上野へ、是る車、去る、向の、同行中
と寝ぬ

桐花下ら、も吟詠ニシテ、石塚三郎、塩津
昌久、七口行の、三三三、心算、高橋、出
るを、し、車中、一、行、と、時、と、話、し
と寝ぬ

五日

今朝四時、田中、解、も、替、元、北陸天
候、車、と、云、田、か、と、雨、氣、と、云、七
時、也、七、時、も、云、着、ぬ、敷、の、校、友、出、中
の、田、中、物、持、来、今、の、免、の、免、病、と、云、来、り

今も予大叩屋に投じて朝おら後、校友の
お集りのもて悠々山と列り、湖歌亭にてお集
を催す。考も需むるものも酒次抽書
二時を移す。杉井郡沈沈ゆりて来り今
午後一時公令を講演会をひらく。演大
部又車馬より折り葉の及物を賜ふ。七
三杯を初めて尖鼻をさす。在軒井沈の犬
隈桑田中穂積の信也とある。又車馬を
たさきと出す。四時余り鑑とんて、公令を
講の演説と為す。六時同場をりて校友

今をひく。未命七十。教名席上。考後の日
況このも余演説。今果て校友二十教
名を招へん。長田。飯。祝。又席上。考二
し。七。揮。直。毛。十。時。の。祝。会。二。叩。く。

二〇

時、早起人の鳴る。待至る紙十枚葉指
毛。進。に。校友。馬。所。余。の。考。を。法。ふ。の。多。し。亦
揮。直。毛。七。つ。と。九。時。半。考。を。辭。し。十一時四
十分。新。所。着。出。の。校友。と。共。に。祝。会。を。後

七五五に錦奉為に到り、夕刻迄飲み、五時
に伴大判軒の校友令に歸る席上一時の談
説をもち、今終り、亦人に招えん校友十数と
再ひ錦奉為に飲む、亦お梅と輪飲深更
後會二物(五)中桐の葉の逢に就く、小山
もも西瓜二顆と給ふ、吾指義彦の兄
石黒廣次の長折を聴く

七日

昨、村崎瑞龍山田教域其訪、旅談時を福
其十一時室崎助卓の逢に上り、山田村崎を指

とお梅に飲み解例決に旅會に由り

八日

昨、吾指義彦の古武村に二家信と梅す、本崎
村清野清一其梅余の押毫と需あり、石塚三
郎山田教域其梅、松井郡治と賜ふ、其
華修山田に托す、早大出役部、其電
し、今日新泰須に五十七嵐訪問の事をも
報す、十一時十分新沼芳山麓城城に
投す、船崎石塚山田等汽車を介して送る

未だ新奈次ハ里破ニ下立しテ行くも
吾等車者ニ同クハ里破着ハ午後八
時とくくとあり。九時河の車中ハ獨ハ
余の地力ヲ下トスルハ折の世帯の諸風
の悪苦トモ候也。車中午後八時後志き
リハ睡度ニ就ルハ一時河眠。今津
道中恙涼の景多く清風車中ハ
入り冷に地くが二時郡山ニ下車。宇
却空の汽車ニ乗換奥坂且つ
あの飲酒白河を姓七里破ニ達す

ハ午後八時とくく下車。且ハ自動
車を備へて新奈次河に向テ北河四
里道踏踏のよ。三十五分ハ七
館山樂ニ着。北館ハ一月前ハ出取
部の教科書編纂の爲め五十九
助手三人を伴ふを在り。皆出立ハ一
後五十九日と對。河法活おの期
一時ハ河の寝ぬ。五十九日の助手ハ皆
早稲田出身。伊奈原の三一里
遠見利久の三名とす。五十九日ハ

とてあるに折の著の筆をとりて、五十六
「我の面白」の追刊自著を贈る。

九日

味時、今朝之時は起床、五十六と相伝を共
しと伝ふ、五十六二三の草履を九出し示さる
比る余らサセストセる事也、五十六の地
ニ未の神速の成切を祈る為め自かた祝詞
を心り温良神社の神に「嘘し神前讀
まし」と其の稿本を示す一讀ま偶々
北吟吉北旅舎あり、一時刻の對流十

時自動車を備ひ五十六と附近の跡地
を探る。先づ新毛別荘地をえ、向ふ久
寛別荘の前をさく、温良神社を拜
し、殺生石を見、大丸温良の元湯等を
き、五山獄を展望し、涯なき原、馳
走し、ゆくり、目下市陸に此地の活用部
ありとせしむ。勢を裁古也ゆ未五十六
の編輯所：充つる事と別り、編輯の
経のを換す、十五の月、完了の換、
り、正午余の家、五十六旅外助午を合

一七杯を奉け終りの号を謝す、酒次施會
之入余の持毫を請ふ、因卒書畫施會
冊の筆を走せ、二時十八分の汽車に投
てんと自動車とを劇を山梨を走る
才良良漢車場の見えくる。東京宅へ
是電報を入、御書と報す、連日睡眠
不足の爲の半脱半醒の間に、小舟のと
こし、七時上り着直ぐ油毛、東京の氣候
の氣去来冷去しく出島前と同日、お茶
久寛田中光顯和田菊吉吉柳海垣才

より来乙、春城等、終十冊、柳瀬日年より
十二万法解、と定を来々、

十日

由、朝来石在中の、家を多と理す、小林ライラン
の、麻呂社、よけひ草、を脱り来、山内海
古来、新大、在る内、存久、意、古物
を、是、す、揮、大、骨、松、玉、帯、跡、の、古、杖、列、の
山、市、山、内、方、より、海、を、是、り、山、内、海
心、身、治、筆、法、を、是、り、関、大、中、より、来、乙、平
使、施、の、中、の、施、会、を、奉、じ、す、和、田、菊、吉、と、筆

語を返りて、海方利、海邊の、
新井部迄、未也、時予、
部、余の、終、此、自、
楠、年、未也。

十一日

印刷、今日、二、三、を、
二、三、今日、老、人の、
押、中、五、十、時、
遊、文、行、家、三、日、
入、

二、回、了、瑞、西、木、
邦、樂、座、の、映、画、
家、月、内、子、こ、文、
魯、座、を、過、り、
村、出、る、未也。

十二日

日

時、和、田、者、を、
狩、り、場、を、
七、島、一、島、と、

栗田且一切死云二つき悔状を為す、寺崎元重未
訪葉語を與ふ、程村宗八の教科書出版の件と
其法中桐隆大の宮崎新之中々治、市島徳
厚も来也、丹兵衛原平も来也、今日始り
日若熱を感す、雜紙を著し、夕陽を色す此
夕昂吟血次上未診注射を施す

十二日

時、初来診候を著す、高橋治郎の二冊の書
贈り、一冊は心利、其傍義彦の二冊を

農政、宇部安直の二冊を贈り、未
改上りし注射を多く、依原隆来、二
三の冊を贈る。且尾花謙由の紙の付と
うき訓、帝室の礼券、森村某、今更の
佐状二つも来、初、龜山素三、高橋秋帆の私
印、杖支那(品)を渡り、来、乃、購ひ入、
午後出版、乙川を、玉敷、紙を贈り、二三
店を訪ひ、一二の圖書を購つ、ゆ、内山
者、三冊、葉語を返り、函、心利、前田
士、火の考、未診、必、吟、血、止、ら、り、貴、子、
也

十四日

晴甚故を思ひ引來揮毫十教書成
。三放旅行中少人の依頼せんが
也。山田通吉教科書の件。口是來玩
長子中村祥心より來也。直つて桂沼中
華下語を多うなす。このまゝ海に到る午後先を
付る船生。四五の物を贈つてゆく。二
時。三割田來診。二時。三雷鳴り。天氣亦
夏す。麻糸を持ち又教書の揮毫
鬼の志状あり。

十五日

晴。阪上弘毅來診。鬼の着後手はほこり
山。ある友より福。電の京を伝へ。朝野
別。古物。馬。恒。流。過。是。為。松。井。新。流。の。書
状。刊。し。阪。上。の。春。城。也。評。を。贈。り。曾。り。内。佛
。念。經。を。讀。み。昂。略。也。已。ま。り。夏。ふ。念。狀
態。也。浦。和。も。文。三。三。の。ま。の。天。侯。逆。虜。り。亦。不
分。前。田。博士。來。り。昂。先。診。灸。を。受。り。新。河
産。山。井。ス。キ。一。を。前。田。の。贈。り。一。時。吹。り
驟。雨。利。り。雷。鳴。り。揮。毫。七。割。を。巻。る。内

底款四枚は印刷今此の爲す。

十六日

晴房あはれ書地書初書古の書判は池田印一
リ近江更生の誕生日を定めて来る。九時出版
二列の松部舎をひきまき敷社者分刊の件を
議す午後日清印刷會社に三文字の書判を
又二物くち、昂味、略、今報未定と云
く夏雲の海流、三年分、未定、宗、分
和野島る、物、馬、垣、の、郵、判、又、高、の、親

感中瀬、士の、非、判、余、の、業
評の批評、出、の、午、前、前、田、午、後、段、上、身、診
注射効を、奏、七、あり、新、打、出、ら、素、也、

十七日

雨、石、塚、三、の、身、診、隨、筆、文、三、集、未、五
配本、十、時、前、の、未、診、池、田、龍、一、二、投、間
空、せ、ん、り、也、心、の、ま、云、り、文、三、浦、和、も
未、の、午、後、支、を、付、あ、り、日、本、橋、筋、の、物、を、購
ふ、二、物、く、ち、昂、容、徳、蹟、五、三、重、好、西、村、徳、六、

印も其不危の山陽の刻紙を言を八十二枚と
賜うはまゝ、高橋義彦と申すは、中平克勤任
し早大、希物御物も花紙と寄り物
の山と云く

十八日

而、西村徳大と、誠也を言す、旅舟を言
す、合此の新株券、このときまゝ来は、小井堅三
と云ふ二のふを托す、明日返すと来、十時
迄も付の果也、日本橋二筋、物を贈り、資生堂

二飯して物、五十尾力の酒、茶を漬、又時を
移す、病父の理、川上又次を祀き、霊
氣を祭法を試み、夜上半前、前田干後、来、珍
報、舞の古物、恒の言、利、余もあゝの氣、
支カ、又、あゝ、前の、服、茶、を、受け、喫、
を、度、す

十九日

而、今朝、形、夕、比、急、川の、火、災、お、馬、場、風、の、家、焼
失、を、報、す、半、日、押、高、岡、を、巻、く、山、の、教、城

う来也川上又次本日も又より霊氣瘴流に
為ゆに施す大段日本山岳今の永見以去の
来也、強弱を著し七夜に入ら、丹美山を去ら
来也、魂の首の端に来也

二十日

而、本林陽美村より本林陽田村に著、瘴を其の
異國者の者の中、回配本、山岳久夜、飛者、旋
転を著す、病状、代り伊香保に在り
杉本金大り、一考と書、病状を

報す、病状、今朝来、漸く病付、午後ツリーの
日本回想録を讀み、概後、中村祥心
之余の揮毫三紙を郵送す、先を付、
四時出遊、上時、帝制の海心を觀
る、劉、坂本龍馬と伊藤高野と、山田
敬誠と、来也、お梅、勘定、在り、
朝、新、其、物、馬、畑、信

二十一日

朝、重松地、二、来、信、東、丑、孫、突、合、主、の
破部、第一、高、田、早、苗、の、給、女、を、來、後、支

那名家便面帳の婚束を流す、ツーフの日本
田巻糸を流す、石の命え巻出段部田を
未接、万田の方等を山田敷城へ郵送(北橋
つ支拂を托す、病必一此方、この路血止まら
ない、這と急執高く、今日の三十八日、この地
所を早下り、とある収まら暑氣加へ、四時川
上靈氣療法を来り施す、夜更石燈を来り
訪多由是、このとき新居へ巻入き(二三指立毫
と托す、又華語を其へ)

二十二日

時、九時迄を待めて出游、濱号親方ニ賽し
神田と画戦回者を將ひ、日本橋ニ飯一七午
後那家産の映畫を又と仰ぐ、唐井一近
達安花喜(茶室大り、ト、ト、来出、二十五日
同者飯折合、任浪合、合の通)蘇州の、病必令
日体温高から多、晚、早前田来診、

二十二日

所、永見徳(大)の南香名、め、を後、飯

上弘花束の例の注射を多く、三重村西村徳
大寺も山陽迄あるも、河方別、余は一
を賜ること、紙も、直に返すを授す、二筆
を伊原に送す、土政部も、筆、語、本、冊、元、高
き、午後散策、新館に到り、物を贈りて、
口、龍杯を著し、七夕湯に到る、信、あ、見、
四、印、山、刊、の、夜、来、又、兩

二十四日

冷、田村社二印文の考、沈、教、社、者、往、
來

淡、坂、上、弘、花、束、例、の、注、射、を、多、く、三、重、村、西、村、徳、
大、寺、も、山、陽、迄、あ、る、も、河、方、別、余、一、
を、賜、る、こ、と、紙、も、直、に、返、す、を、授、す、二、筆、
を、伊、原、に、送、す、土、政、部、も、筆、語、本、冊、元、高、
き、午、後、散、策、新、館、に、到、り、物、を、贈、り、て、
口、龍、杯、を、著、し、七、夕、湯、に、到、る、信、あ、見、
四、印、山、刊、の、夜、来、又、兩

二十五日

雨、程、村、京、八、十、五、法、山、田、寺、也、こ、も、
集、り、る、也、

集を贈る九時半大隈政判邸を訪ふ、若くは
引つ、き保蔵者岡こつきあいの用を兼し、出
政部、之を教科書編纂の件を内閣、し
ゆく、大隈政判邸、し、メロコ、日本電力会社、
リ里部、西瓜到来、複製を今、し、立、高、南、眼
者、有、朱雀、佐、夫、招、(下)配本、未刊、隨、筆、行
才十七回配本、新打出、し、し、書、者、胡、野、方
ち、神、尾、恒、の、者、到、り、通、官、紙、睡、を、得、ず、

二十六日 日

時、冷、新、打、出、之、返、を、せ、ら、ず、帝、も、も、未、前
館、保、を、善、す、山、田、教、城、田、中、あ、山、伯、中、村
祥、也、も、来、也、中、時、光、を、伴、わ、せ、教、兼、を、寫、信
時、も、も、川、流、船、も、も、任、に、別、り、由、す、を、編、を
贈、つ、て、出、せ、に、廻、ら、り、書、屋、を、役、し、ア、ガ、レ、店、
と、瑞、西、人、形、を、贈、り、部、樂、生、の、映、畫、と、を、
七、物、に、る、表、を、屋、に、持、し、を、也、岡、出、来、不、
未、又、雨、漢、更、二、回、地、震、も、る、

二十七日

由、保存と云ふ事も同ハ色一巻と云ふも表
々、扨、托す、新村出、横野古松、古義
堂の心算、四枚判、文の巻を、作、三
の圖書を、辨、二十内、拂、由、書、後、足、遠、あ、右
工、門、年、持、一、懸、白、云、来、凶、午、一、電、交、り、の、由、判
、響、の、庭、に、呈、村、集、を、讀、む、新、井、石、塚、
り、物、を、贈、り、来、り、神、田、の、者、店、を、訪、ひ、雜、本
を、得、て、物、一、の、文、藝、春、秋、社、を、十、月、號、に、隨
筆、一、篇、の、字、の、行、を、索、め、来、り、

二十八日

由、富本、意、之、の、室、を、雜、記、を、讀、む、新、村、出
、筆、後、を、郵、送、す、村、長、久、一、と、電、話、を
、帝、也、株、の、件、を、云、し、其、の、市、の、坂、三、山、本、村
、法、淨、念、寺、の、題、の、其、後、を、就、て、考、へ、拙、書、を
、數、枚、贈、り、其、後、見、附、若、林、吾、花、を、し、其、者
、余、の、押、毫、を、と、ち、午、後、雷、鳴、り、驟、雨
、到、り、午、後、押、毫、數、冊、の、郵、入、の、為、り、於、
、録、を、著、す、夜、半、雷、鳴、り、雨、志、き、り、り、

二十九日

雨田代亮人多し来言ふ。小井堅三より訪、新沼成
川久花も、雪坪画集を贈り来ふ。巻首に余
の題字あり。成川、海者とも書る。十時光を伴ひ
て出遊。日本橋船生、道と物と辨ひ、二三回寺を
辨ひ、牛蒡、豆、芋、七、均く、伊勢の西村徳
大ららし。山陽、石波、像、景、又、念心、彫、刻
の釣瓶花、三、鳩、辰、巻、の、終、印、あり、若、舟
一、双、を、贈、り、来、り、こ、の、甚、比、路、と、よ、し、山、田、教
師、も、来、り、且、紙、後、遺、り、記、の、物、を、送、り

来り、西村、海、也、と、書、り、午、後、又、驟、雨、到、り、花
畑、と、書、す、去、り、海、陸、善、と、書、り、去、り、田、六、夏
ら、物、を、贈、り、来、り、

三十日

雨、朝、来、り、去、り、海、善、と、書、り、山、田、信、也、來
訪、平、塚、芳、吉、柳、馬、恒、の、清、息、到、り、山、田、功、
吉、来、り、宗、徳、日、記、戊、辰、紀、念、寺、と、云、り、
日本美術院、并、二、科、今、も、展、覧、會、の、案、未
内、状、到、り、海、田、貞、家、も、来、り、午、後、三、原

春大早し来る不雨迄す。山田段城の紙後遺
史記を讀む。興を感す。いさよ。鈴木印三
より牧之邊を去る。三月七日未簡

三十一日

病、村山田邊を致し。若河屋三行氏治小
久江外一往て来る。故上山花事あり。注射せ
施す。笠原春芳あり。毛利宮彦。再訪之。春
春秋。校すへ。さ。い。つ。太。靈。道。神
靈。次。藤。五。十。四。文。出。す。頼。山。陽。の。書。是。釣

福元花黒。朝向を揮ひ。此黒花也。此花に
過す。午後出浴。給付る物を採ふ。某言
主の屋を。白樺葉。こ。今。三。教。埃。及
物。の。上。七。日。甚。入。を。日。秋。葉。の。田。原
を。こ。飲。ま。を。月。お。七。い。の。い。こ。し。多
し。七月の若め。籠。お。の。杯。を。天。を。

○九月

一日 二百十日

頃より一年前大厄の記念日也。朝来旋縁を業
夫龜山素三宮様の画一幅を於冬焼心
入り、ラジカを以つて後託を放送す、新村
出も来也、もふ天候あま平穏らん、と蓋
しありく、気温九十九に達す、終日後書河
を老く、謹慎一日龍を北城新設に在江
秋情らし来也、且つ休後小本におまの人の内
帰功の記を二行とす、韓國を去りて

馬場の場とあり、帝通(一) 減資二分来也

二日 日

所無風、在台北山中植(一)も来、尚且愛玉子
を贈らる、古木茂一身上に付来、流、山田海玄也
阪部の事件、一も来、午後先を付して浪堂
と到り、怒るをあて、墨を贈ひ、邦楽座の映意
を兄、夕刻、赤糸、赤糸、一、假ま、偶と、坊内、道長
夫婦、今、西村徳太郎、も、貝の、花骨
茶室の山陽、其、祀の、刻、詩の、客、一、も、ま、り、来、る

三日

昨朝来旅寮を中へ山田福吉出版部の
 要件に於て該池田龍之経村宗八氏訪
 大隈家別邸へも物を好し来り山中樵西村
 徳大らと此状を反す午時一杯を飲け一杯
 涼風を納りて午睡を食らう是の事あり又
 龍之経を著す又の場合の荷田成尾今地
 念經の花家の原稿を持来朝鮮の事あり

柳馬校の消息あり晩百五十頁故授可訪
 折葉あり七星ヶ谷常家あり新刊教科書
 海軍家の打合を為す

四日

昨、教科書問題三月程村十月、萬巻寺春
 車、海義録を引元大隈家と先妣
 の遺志と基き先彦に定めて名
 家者同十五名贈る三條と心
 合ふ伴原陸奥上野寺崎島義事あり

福羽中井山御純造補定五代を影寺
法主三人(直)所方を是なり古尚書を四下
古澤に表壯志を托す、関大甲江に秋情よ
り来信、戊辰紀念録の原稿を讀み、森田直
品中古木茂氏佈法板友治部太平次と
来也

五日

晴朝来龍泉を養ふ、河井孝俊来物に
演説の経を聞録式ボニ付協談を爲る

二時、十一時出故部、到り、三時迄法
戒の事を協談し、大隈家別部、到り、此
日名家書籍を定めて見せ、謝意を表
し、佛く、新書、旧書、新書、新書、新書、
世宗、新書の部、此、新書、白山社、余
の家、この納め、船舶の巨額面を撮
影し、字、字、真、四、枚、送、り、来、る、余、の、囑、り、
依、り、也

噴、大江に在るの事、筆、謄と書ふ、料、日、流、朝、時
目、卷、の、天、平、人、形、を、お、卷、五、十、風、力、の、書、に、指
す、三、時、良、花、妻、の、外、列、に、茂、辰、に、念、録、の、原
稿、を、讀、む、山、田、教、城、に、向、す、萬、屋、者、居
る、講、義、録、を、印、代、六、十、四、納、す、野、六、丈、夫、在
過、一、時、も、出、遊、雜、私、を、書、し、七、時、を、復、す

七日

噴、佐、為、印、も、未、出、往、別、室、に、來、返、由、田、武、一、余
の、指、書、を、も、と、さ、十、時、日、流、印、代、の、重、役、會、に

臨、の、半、後、出、版、部、に、到、り、高、田、廣、河、と、世、友、科
考、一、件、を、向、議、す、森、島、楠、漱、未、稿、十、月、一
日、流、記、子、の、米、壽、の、賀、安、を、し、ら、く、に、信
芳、紀、入、も、未、出、お、向、の、六、時、に、在、り、と、よ
り、世、園、子、を、野、々、と、増、子、を、去、り、未、出
人、の、私、列、に、在、り、を、書、し、七、時、を、到、る

八日

噴、増、子、義、我、下、り、三、時、良、花、一、梅、枝、を、知
す、京、新、社、在、勤、の、五、時、良、見、楠、漱

物のおもひを来揚吾印利社に入社を執す
日もの也、和田善吉より改題し、載せしむ
及言家愚左府頼吉の別摺を定家
七才あり、松原を善吉より松山保一家并
門法の者尚十回と雖も、價百圓の内元
敢て不用方画二十回を午後者元細川信
吉と接、通流於本家と云るは、きこふに印
税支拂の約をせし故部も金三万圓領ぬ
今津二一と来出早の蘭台の一行橋を字を
来、

九日

明漢大ら二箇す、頼氏并内流者尚十四
通二卷七行、表巻を托す、人の着る、不
敷、揮毫、数、序、程、拍、案、八、年、迄、十、時、出
遊、日本橋、以、坐、に、物、を、婚、ひ、味、と、多、と、酒、飲、し
て、邦、樂、座、の、映、畫、を、見、晚、召、ゆ、毛、今、津
ハ、一、と、し、来、也、

十日

明、今、津、二、一、と、簡、す、西、村、徳、大、ら、一、と、是、細、也

刊行。雑紙を筆す。九時出政部。刊行
幹部。各。路。又。教科。書。其。他。の。件。も。交
し。午後。二時。三時。の。始。生。を。回。り。ゆ。る。
戊辰。記念。祭。原。稿。三。束。領。收。令。付。一。ら
束。也。

十一日

二百十日

頃。無。凡。一。時。時。夢。覚。め。て。戦。を。ゆ。す。戊辰。記
念。祭。の。原。稿。を。讀。み。云。ぬ。こ。ゝ。む。朝。日。報。紙。
を。著。す。り。宗。家。主。人。來。訪。淨。念。寺。一。件。其。他。

つきも時。別。流。し。別。く。編。四。戊辰。録。編。目。案
に。付。來。訪。田。中。元。野。村。と。し。余。の。既。刊。隨。筆
編。四。種。所。出。二。つ。も。直。に。若。日。送。七。し。一。半。後
出。版。部。に。刊。り。五。十。九。力。と。七。子。同。政。科。書。館
目。録。に。付。交。渉。を。了。す。三。時。半。ゆ。る。今
日。天。彭。と。し。日。本。流。寓。の。時。未。法。士。を。説。く
に。南。洋。一。二。階。建。の。貸。家。を。此。り。と。小。上
棟。式。を。奉。く。庭。園。の。分。改。と。定。する。に。付
其。内。高。堀。を。此。く。こ。と。を。由。義。と。す。

十二日

晴、並科正(多事)のち校長の野口英世紀名録
 を言ひ来り、天候変し七時以後驟雨となり、午後
 八時細雨となり、又四時三十分の昔に梅吉山田
 油吉本流、改上地士より例の注射を受く、白
 鳳紐模本一巻、今津八一の巻、石、次、す
 る為、小包に入て貸し出さ、大石堤田、石、石、巻
 襦袢、鏡剣を贈る、芝を付けし出、昨日
 本橋柳屋、奥殿文の巻を、同考を、贈
 八十四山拂、表裏を托し、与、寺、簡、二

巻出来、旋糸を兼す、西村徳太郎(色
 簡も投す)

十三日

晴、雜江を兼す、残り有、修、る、存、午後、芝を
 併せ、兼、来、日、も、修、る、異、波、を、踏、い、今、月
 巻、飲、料、と、飲、又、三、時、ゆ、中、七、又、旋、糸、を
 兼、す、福、田、茂、辰、田、廣、録、の、残、稿、二、巻、
 持、卷、直、り、と、讀、過、

十四日

市、朝米旋廻を著す、木杜脚福田未極、
及下三印、東海、河、以、枝、の、合、村、河、懸、下、
き、を、の、合、話、し、と、云、る、午、後、真、以、桂、次、了、
訪、あ、を、遊、と、市、山、琢、出、と、郵、吉、と、
及、下、三、印、の、旋、廻、と、著、し、と、著、し、戊、辰、
漫、録、才、四、書、を、著、す、石、油、時、報、に、余、の、著、
評、し、牧、野、家、の、文、の、一、部、と、稱、録、す

二十五日

市、行、村、家、の、田、村、壯、二、印、未、極、講、談、社、二、間、
と、家、の、修、養、訓、十、教、訓、を、授、く、之、の、付、丸、に、
ル、州、美、と、領、し、文、行、を、宇、田、川、松、尾、自、
著、し、と、冊、の、具、首、自、著、を、四、冊、を、贈、り、
二、三、九、冊、也、未、極、著、し、其、中、を、思、ひ、で、旋、廻、を、著、
す、及、下、三、印、の、グ、ラ、フ、ヒ、ヤ、工、場、を、著、人、合、社、係、公、
の、り、子、縁、定、の、如、く、決、満、り、方、未、田、秀、人、と、
報、し、未、の、

二十六日

日

時、朝来花嫁を筆す、萬山書三、雲字
の中、大幡を揚る、山陽川海吉、前代の由五
十の者す、外二十、月而物をす、新河出身の
生山、余の隨筆二冊と、おろ来り、勢字を
と、お即ち書し、其子、残王の題、地、す、年
後、光を筆す、し、後、の映、高を、又、田原
二、後、七、初、く、昂、二、為、の、此、り、す、年、由、子、篇
後、を、し、と、し、

由、余、津、ハ、一、と、蘭、堂、銀、無、僧、旗、勢、瓶、人、形
を、贈、り、来、り、酒、壇、の、柱、の、装、飾、に、用、い、は、す、よ
か、其、用、詳、う、ら、り、さ、し、一、個、を、持、と、見、り、す、不、可
有、し、人、形、棚、に、添、加、し、の、故、を、活、き、旅、探、を
筆、す、余、津、に、遊、ぶ、を、見、り、大、石、堀、田、村、山、の
し、ゆ、て、山、状、を、見、り、寺、を、托、す、僧、を、招、き、内、佛
に、後、往、を、請、ふ、此、の、松、木、山、也、余、今、夜、星
云、房、寮、に、根、う、る、午後、村、山、の、ゆ、り、由、來、の、訪
情、向、一、也、初、め、を、秋、吟、を、見、り、夕、刻、を、筆、す、
刊、し、松、木、の、ゆ、り、由、來、の、外、二、三、品、の、由、來、

浪の足見事合遊歴七の分、海へ、杉木を
伴の杜母、欲し十二の物也、今月八一
より、廣井一と、梨果一画始り、

十八日

雨、又、以、算、一、出、波、部、の、問、題、と、有、り、流、出、波、
部、と、是、道、刊、三、冊、配、本、午、後、出、遊、十、月、五、日、大、
隈、廣、澤、の、家、法、修、後、露、の、案、内、到、り、廣、井、海、
と、是、道、の、左、南、米、其、時、平、三、に、一、と、一、未、出、
遊、歴、を、事、し、一、河、を、老、る、未、以、の、人、三、山、市、早、
田、元、道、と、一、全、う、地、平、山、陽、と、此、と、評、論、を、

定の未、和田萬吉と、未考

十九日

雨、和田萬吉、早田元道、卷山、往、打、宗、八、日、
訪、九、月、廿、五、日、回、寺、寮、新、築、地、念、二、世、又、
訪、今、々、の、案、内、到、り、池、田、龍、一、其、也、
稲、田、茂、辰、保、の、案、内、を、持、り、午、後、日、知、信、
稻、生、道、と、教、果、一、西、洋、既、具、と、海、女、を、詢、
一、つ、成、辰、保、の、行、と、後、也、又、遊、歴、を、事、し、
一、と、地、へ、入、り、

二十日

明、森田田村文の考院の経論雖二つを未だ
廣井一註と表の、十時出版部の株主の重役会
に臨む、午後六時の催物会、臨む、用友会
生感問題のとき戒論給に漸く理めて悔む、
中央公論に余の著書、終に致し、柳田四男の批
評を掲ぐ、文藝春秋の巻頭、余の愚考
を掲載す、早大に新編出版部、不足額
を徴す、浦津の事、ピアノを浦津す

以下別冊に録す

